

第2学年 国語科 学習構想案

日 時 令和7年10月8日（水）第5校時

場 所 2年1組教室

指導者 教諭 ○○ ○○

1 単元構想

単元名	せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう 「紙コップ花火の作り方／おもちゃのつくりかたをせつめいしよう」（光村図書「赤とんぼ」p.41～51）		
単元の目標	(1) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 ◎〔知識及び技能〕(2)ア (2) 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 ◎〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ (3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 ◎〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ (4) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。 ◎〔知識及び技能〕(1)オ (5) 時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 ◎〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア (6) 粘り強く文章を読んで、文章の構成や順序などを捉え、書いた文章を読み合って、説明の工夫やその分かりやすさについて伝え合おうとしている。 〔学びに向かう力、人間性等〕		
単元の評価規準	知識・技能 ①身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊にしている。(1)オ ②共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	思考・判断・表現 ①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ②「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ③「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	主体的に学習に取り組む態度 ①進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもっておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。
単元終了時の児童の姿			
教材文と「けん玉の作り方」から見つけた説明の工夫をいかして、おもちゃの作り方の説明する文章を書こうとする児童			
単元を通した学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
作り方を分かりやすく伝えるための工夫を「ひみつの道具」としてまとめ、その工夫を生かしておもちゃの作り方を説明する文章を書こう。		説明の工夫に着目して読んだり、聞いたり、文章と写真を対応させて読むことで、文章を書く時の視点を獲得すること。	
指導計画と評価計画（14時間取扱い 本時6／14）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	○ 既習事項を振り返ったり、「おもちゃ作り」の文章を読んだりして単元の見通しをもつ。 ○ 文章のまとまり「前書き」「材料と道具」「作り方」「楽しみ方」と提示の順を考え、工夫を見つける。	【態①】（発言・ノート） ○ 「たんぼのちえ」「どうぶつ園のじゅうい」で学んだ順序について自分の言葉で振り返ることができる。 ★【知②】（発言・ノート） ○ おもちゃの作り方を説明する文章の組み立てを考えている。
二	4	○ 文章の並べ替えをして、順序がわかる言葉（「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」）の工夫を見つける。 ○ 写真について話し合い、教材文を基に写真と結び付ける。 ○ 教材文や写真を基に紙コップ花火を作る。 <u>○ 大事な言葉や文について線を引く。（本時）</u>	★【思②】（発言・ノート） ○ 時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。 ★【知②】（発言・ノート） ○ 文章と対応している写真をについて理解している。 ★【思③】（発言・ノート） ○ 文章の中の重要な語や文を見つけることができる。 ★【知①】（発言・ノート） ○ <u>どんな言葉や文が説明の工夫になるのかを理解することができる。（本時）</u>
三	6	○ おもちゃの作り方を説明する文章を書く学習の流れを確認し、作り方を説明するおもちゃを決めて、必要な材料や道具を書き出す。 ○ おもちゃを作ってみて、上手に作る工夫や説明が難しいところをメモする。 ○ 文章を書くときに使う写真や絵を用意する。 ○ 選んだおもちゃの説明の順序を考える。 ○ 選んだおもちゃの作り方を説明する文章を書く。 ○ 選んだおもちゃの作り方を説明する文章を書く。	★【知①】（発言・ノート） ○ 作り方を説明するおもちゃを決め、必要な材料や道具を書き出している。 ★【思①】（発言・ノート） ○ おもちゃを作ることを通して見つけたり、気づいたりしたことをメモに書いている。 ★【思①】（発言・ノート・写真や絵） ○ 難しいと思ったところなど必要な写真や絵を準備している。 ★【知②】（発言・ノート・発言） ○ おもちゃの作り方を説明する順序に沿って組み立てを考えている。 ★【思①】（ノート・発言）○ 内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫している。 ★【態①】（ノート・発言） ○ 事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫し、文章を書こうとしている。
四	2	○ 書いた文章を友達と読み合い、友達の文章の工夫していることを見つけて伝える。 ○ 単元で身に付けた力を振り返る。	★【思③】（発言・ノート） ○ 友達が書いた文章を読み、工夫していると感じたところを友達に伝えている。 ★【態①】（発言・ノート） ○ 学習を振り返り、身につけた力を今後の学びにいかそうとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

小学校学習指導要領第1学年及び第2学年
〔知識及び技能〕 (2) ア情報の使い方
〔思考力、判断力、表現力等〕 「B書くこと」「C読むこと」

教材・題材の価値

本教材は、おもちゃの作り方について、順序が分かる言葉を使って説明している。また、読み手にとって分かりやすい説明の言葉が随所に用いられている。それら筆者の工夫を生かして、おもちゃの作り方を書けるようにしていくことに適している。

本単元における系統（横軸を当該学年での他領域とのつながり、縦軸を他学年での同領域のつながり）

2年「たんぼぼのちえ」
順序や理由に気をつけて読む。

2年「じどう車くらべ」
説明の順序に気をつけながら読む。
1年「じどう車ずかんをつくろう」
説明の順序に気をつけて書く。

2年「紙コップ花火の作り方」
順序を捉えたり、文章と写真を対応させたりして読み、大事な言葉や文を見つける。
2年「おもちゃの作り方をせつめいしよう」
順序が分かるように書く。

2年「ロボット」
大事な言葉を見つけながら読み、わかったことや感想を伝え合おう。

2年「どうぶつ園のじゅうい」
順序に気をつけて読み、自分の考えをもつ。

3年「すがたをかえる大豆」
話題と、事例の書かれ方を捉えて読む。
3年「食べ物のひみつを教えます」
適切な事例を挙げ、構成や順序、絵や写真の示し方を工夫する。

児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（R7年 町学力調査問題 R7年度4月実施）（％）

出題のねらい	正答率
事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。	72.4
文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。	44.8
相手に伝わるように経験したことに基づいて話している。	37.9
内容のまとまりがわかるように文章を書いている。	27.6

■本単元の学習に関する意識の状況（R7年度9月実施）（％）

調査内容	はい	どちらかといえはい	どちらかといえはいえ	いいえ
① 説明する文章を読むことが好きですか。	33	45	22	0
② 国語の教科書をすらすら読むことができていると思いますか。	33	52	14	1
③ 国語の授業で「できた」「わかった」と思うことがありますか。	33	52	15	0
④ 国語で習ったことを、次の学習に「いかしたい」「いかせる」と思いますか。	22	67	11	0
⑤ 授業で考えているとき、友達の考えを聞きたいと思いますか。	44	56	0	0
⑥ 自分の考えを相手に伝えたり、発表したりできていますか。	33	45	22	0

■考察

4月の町学力調査の結果から見ると、「事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている」の項目の正答率は約7割である。初めて読む説明文の問題に対して、文章の中の重要な語や文を考えて選び出したり、相手に伝わるように経験したことに基づいて話をしたり、内容のまとまりがわかるように文章を書いたりすることを苦手としている児童が多い。文章全体の構成を捉えた上で、基本的な読み方を確実に身に付けていく必要がある。

意識調査の結果では、ほとんどの質問項目において、8割以上の児童の肯定的な回答が見られ、意欲的に国語の学習に取り組んでいることや、前学年まで国語の授業について、積み重ねがあるということが考えられる。一方で、①の質問と⑥の質問に対しては否定的な回答をした児童が2割程度いる。①の質問については、説明する文章（説明的文章）とお話の文章（文学的文章）など、事実と創作の違いに気づけていないことが考えられる。⑥の質問については、友達の考えを聞きたいが、そこから自分の考えにつなげ、伝えていくことに自信がなかったり、その必要性を感じ取れていなかったりすることが考えられる。学んだことを活用していこうとする態度が育ちつつあるので、それらを活用する良さを実感できるような工夫や、ペア活動や班活動、全体での対話を意識しながら授業づくりを行っていく必要がある。よって、以下に挙げる研究の視点をもとに、学習活動の工夫を行う。

3 研究の視点

研究主題
学びの自覚化を通じた主体的な読み手の育成 ～国語科「説明文教材」を中心とした授業構想～
研究の視点
(1) 「問い」が生まれる導入の工夫 ① 単元をつらぬく「問い」を生む工夫 <ul style="list-style-type: none">・1年生の時に、2年生におもちゃ祭りに招待してもらった時のことを想起させる。2年生となった児童に私たちも1年生に楽しんでもらえるおもちゃ祭りをしたいという気持ちを持たせる。1年生に喜んでもらえるおもちゃを作るためにおもちゃの作り方の説明を書いてはどうかと投げかける。先生が書いたおもちゃの作り方の説明を読んで、もっと分かりやすい説明が必要であるという思いを持たせる。そこで、これからの学習で何を学びたいのかを「問い」という形で明確にする。そうすることで、教材から学ぶ必要感を持つことができるようにする。 ② 学習の連続性を意識し、「問い」を更新していく工夫【本時】 <ul style="list-style-type: none">・毎時間授業の導入で、前時での振り返りや感想を電子黒板に映し、全体で共有する。毎時間の学びがつながっていることを自覚すると共に、単元をつらぬく「問い」の解決に向けた学びの価値づけをして毎時間の授業に目的意識を持って向かうことができるようにする。
(2) 重点指導事項や既習事項をもとに組み立てる授業構成の工夫 ① 学びの系統性を意識した単元計画の工夫 <ul style="list-style-type: none">・単元計画をする際に、本教材の重点指導項目を軸にすることで、本教材で確実に学ぶ必要があることは何かを明確にする。同じ重点指導項目におけるこれまでの学びや、前教材・前学年での学びを明確にすることで、既習事項をもとにした効果的なアプローチができるようにする。 ② 重点指導事項をもとに考える学習活動の工夫【本時】 <ul style="list-style-type: none">・本教材では、おもちゃ作りについて順序を捉えたり、文章と写真を対応させたりして読み、大事な言葉や文を見つけるなど、筆者の工夫を見つける。教材文と「けん玉の作り方」から見つけた説明の工夫をまとめ、まとめたものを生かして、おもちゃの作り方を書けるようにする。
(3) 「わかった・できた」を実感させる「振り返り」の工夫 ① 考えの共有を促す学習形態の工夫【本時】 <ul style="list-style-type: none">・自力解決場面、ペアや班での対話の場面、全体での共有を意識した授業づくりを行う。自分の意見を伝えるために、自力解決の時間を確保する。その後、自分の考えの理由を説明したり、相手の考えの根拠がどこにあるのかを意識しながら聞いたりすることができるよう対話活動を取り入れる。他者と考えを共有させることで、より自分の考えを深めることができるようにする。一人では分からなかった考えに出会い、他者と考えを共有することで、自分の考えを価値づけられるようにする。 ② 学びの自覚化につながる振り返りの工夫【本時】 <ul style="list-style-type: none">・本時の学びを振り返りの視点に沿って振り返らせる。自分の言葉で振り返ることで、学びを自覚するとともに、次時の学びへの意欲付けとする。また、単元の最後には、教科書の「ふりかえろう」を活用し、「知る・読む・書く・つなぐ」の4つの視点について、振り返りを行う。本単元で学んだことをまとめ、学びを実感させるとともに、学んだことが今後につながっていくことの見通しを持たせるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 重要な語や文を見つけ、作り方を分かりやすく伝えるための工夫について考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 単元のゴール、問いを振り返る。</p> <p>◇ゴール「①作り方を分かりやすく伝えるための工夫を「ひみつの道具」としてまとめよう。②その工夫を生かして、おもちゃの作り方を説明する文章を書こう。」</p> <p>◇問い「どの言葉に気をつけて文章を読むといいのだろうか。」</p> <p>2 前時の学習を振り返る。</p> <p>◇紙コップ花火を作った。</p> <p>◇「前書き」「材料と道具」「作り方」「楽しみ方」が書かれていた。</p> <p>◇作るために大事だと思った言葉や文に線を引いた。</p> <p>◇「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」と書いてあったので、順番に作っていった。</p> <p>3 筆者の工夫について問いを持つ。</p>	<p>○学習課題を確認し、単元を貫く問いを振り返ることで、何のために学習しているのかを焦点化する。</p> <p>○前時の振り返りを出すことで、これまでの学びを想起し、本時の学習につなげられるようにする。</p> <p>○「ひみつの道具」を見える位置に掲示しておく。</p> <p>○どんな言葉や文に気をつけて、紙コップ花火を作ったのかということを問い、本時のめあてにつなげるようにする。また、既習事項である「ことばでみちあんない」で学んだ「だいじなことはくわしく言う。」という経験を想起させる。</p>
		<p>【めあて】 作り方を分かりやすくせつめいするために、どんなことばや文を使うとよいか、ひっしやのくふうを見つけよう。</p>	
展開	30分	<p>4 作り方を分かりやすく伝えるための工夫を見つける。</p> <p>(1) 自分の考えを持つ。</p> <p>◇「1センチメートル」「外がわ」「太いほう」</p> <p>(2) 班で考えを共有する。</p> <p>◇「1センチメートル」→「同じです。」</p> <p>◇「まん中に鉛筆をさして、穴を空けます。」→「どうやってするかがあった方がわかりやすいと思う。」</p> <p>(3) 全体で共有する。</p> <p>◇「1センチメートル」「長さが半分になるように」→長さ</p> <p>◇「紙を半分に切り分けましょう」→大きさ</p> <p>◇「長方形」「同じ形」→形</p> <p>◇「まん中」「外がわ」→場所</p> <p>◇「よこむき」→向き</p> <p>◇「はばが細すぎると、花火がうまくひらかないので、気をつけましょう。」→注意すること</p> <p>【期待される学びの姿】</p> <p>・実際におもちゃを作ったときに作るために大事だと思った言葉や文に着目して、工夫を見つけることができる。</p>	<p>○本時では、文章の組み立てや順序、写真ではなく、作り手の手順を分かりやすく説明する言葉や文に注目させる。</p> <p>○前時に紙コップ花火を作ったことを想起させ、みんなが同じように紙コップ花火を作ることができた理由を考えさせる。</p> <p>○作るために大事だと思った言葉や文に線を引かせる。書かれていないと困る言葉や文に注目させる。</p> <p>○どうしてその言葉に気をつける必要があるのかと問い返すことで、なぜこの言葉が大事なのかを児童に考えさせる。</p> <p>○文については、注意することを書いた文や写真を確認させる文など、作る上で気をつけることを書いているということを確認する。</p>
		<p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○個別に、前時のおもちゃ作りでどのように作っていったかを聞き、数字や長さ、場所に線を引かせる。同じところに線を引いている人の発表をよく聞き、考えが同じであったかどうかを確かめていく。</p>	
終末	10分	<p>5 本時の学習をまとめる。</p>	
		<p>【まとめ】 作り方を分かりやすくせつめいするために、長さ、大きさ、形、ばしよ、むき、ちゅういするところを使うとよい。</p>	
終末	10分	<p>6 本時の振り返りをし、次時の見通しを持つ。</p> <p>◇ひみつの道具4つ目がわかった。早くおもちゃの作り方の説明する文章を書きたい。</p> <p>◇長さがわかるように書くようにしたい。</p>	<p>○「振り返りの視点」に沿って振り返りを行う。</p>
		<p>【具体的評価規準】知①</p> <p>★どんな言葉や文が説明の工夫になるのかを理解することができる。</p> <p>(方法：発言、発表、ノート)</p>	